

移住者インタビュー【第1回】

令和3年に神奈川県から移住された「矢野義幸さん・矢野隆子さん」ご夫婦にお話を伺いました。
現在は本郷地区のご自宅で暮らしています。
お二人はどんな「いいじまライフ」を送られているのでしょうか。

Q.移住を考え始めたきっかけを教えてください。

義幸さん：きっかけは住んでいた家の隣にアパートができて、せっかくの景色が見えなくなったことです。あとは仕事と体調の関係ですね。この先を考えていた時に、駒ヶ根市の知り合いに「遊びにおいで」と言われ、伊那谷を訪れました。

隆子さん：以前から、子どもたちが自然の中でのびのびと遊びながら学べる場所を作りたいという思いがありました。あとは、夫の体調が心配だったことです。仕事熱心でずっと仕事をしているのが心配で……。空気のいい田舎に行きましょうって誘いました。

Q.飯島町への移住の決め手は何でしたか？

義幸さん：色々見て回りましたが、飯島町が一番親身になってくれたことです。役場の方が土地を紹介してくれたり、相談に乗ってくれたり。移住後もなにかあればすぐに相談に乗ってくれます。ご近所さんとも仲が良く、よく飲み会をしています。

隆子さん：ご近所の方に恵まれて、移住前も移住後もとても助けていただいています。後は景色！美しい田園風景と山々、中央アルプスと南アルプスの景色に一目惚れしました。

Q.移住を決めた後、まずは何をしましたか？

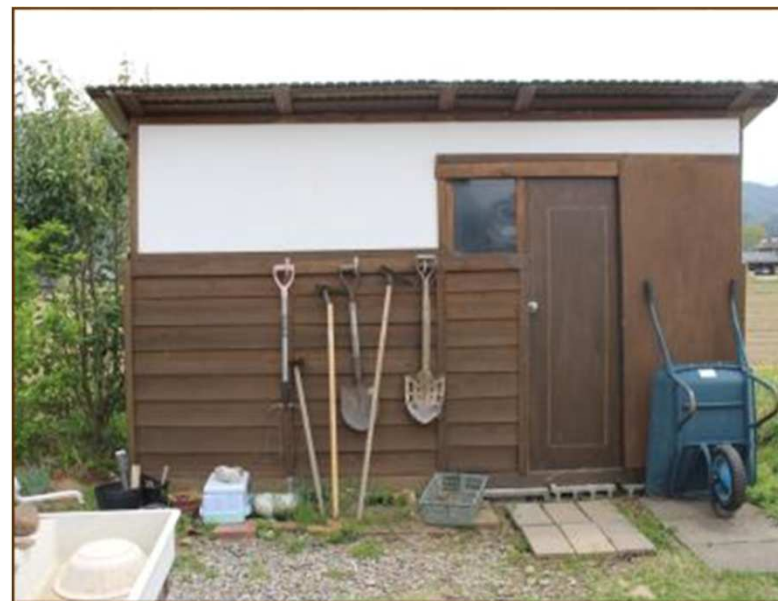
義幸さん：まずは中古の家を探しました。色々探したのですが、ピアノを置けるような家が見つからず・・・。
最終的に今の場所が気に入り、家を建てました。できるだけ化学物質を使わない家づくりにこだわり、素材も吟味しました。

隆子さん：十数年前から、ボランティアで民族の伝承である「わらべうた」を使った音楽活動と子どもの支援活動をしています。移住後も生きた「わらべうた」の世界が広がるこの町で、農家の方や郷土の研究をされている方のお力添えをいただきながら、大人と子どもの関係を深め、子どもの心とからだを育てる「わらべうた」の紹介と普及のために励んでいます。いつの日か音楽に発展できるといいなと思っています。



矢野さんご夫婦のこだわりがつまったお家。

義幸さんがDIYで作成した物置小屋。素材は近所の方から不要になった素材を譲り受けたもの。
この小屋の他にも、義幸さんのDIY作品がご自宅にはたくさんあります。





こだわりのお庭を見せていただきました。
5月の終わりの頃には、畑の大麦が黄金色に色づきます。
お庭にはキツネやタヌキがやってきたり、様々な鳥や蝶、蜂、トンボなども飛び交います。時には蛇に遭遇することもあるそうです。左手前はピアノの形に整備された一角。
細部まで丁寧に整備されていて、お二人のこだわりを感じます。

ご自宅の畑。

畑の半分は、化学肥料や農薬を使わず、雑草や虫を敵としない自然農、残り半分は在来農法風で作物を育てています。野菜だけでなく、綿や数珠玉、和紙の原料になる楮（こうぞ）、町のシンボルである百合や蕎麦など、子どもたちが自然の中で遊びながら農業や郷土、日本文化を学べる場所づくりを目指し、日々努力をされています。畑の奥には陣馬形山の山系が見えます。



義幸さんがDIYで作ったテーブル。
なんと「欄間」を再利用して作られています。
この欄間は、「伊那グリーンファーム」で購入しました。
日本の職人さんの技術に触れられる場所になったら良いなと思い、作成をされたそうです。「学びは、みんながお互いに協力し支えあうことで生きたものになると感じています。」と話されていました。

Q.移住して困ったことを教えてください。

義幸さん・隆子さん

自然の厳しさです。風が強く、家の周りの整備にとっても苦勞し何度も心が折れそうになりました。冬は氷点下10度以下になる日もあり、地面が凍ります。夏は炎天下で背中をやけどし、手入れしてもすぐに生えてくる雑草対策に追われ身体のおちこちを痛めてしまいました。農家の方たちのご苦勞を身に染みて感じています。飯島町の美しい景観も、日本の食も、農家の方々の長年の苦勞と知恵と努力の上にあることを思うと、本当に頭が下がります。

Q.飯島町のおすすめスポットを教えてください。

義幸さん：飯島城址です。伊那谷の中でも5本指に入る遺構が残る貴重な城跡なので、ぜひ保存して大事に受け継いでいって欲しいです。観光資源としても活用してほしいですね。

隆子さん：自宅から見る山々と田園風景です。作られる作物や季節、時間、天気により美しく変化していく様子が農家の方たちの働く姿と重なってとても感動的です。田んぼに水が張られると、カエルの大合唱が聞こえてきます。その水面に映り込む山々や月夜の景色、風にたなびく稲、秋の稲かけ仕事、どれも絶景です。

義幸さんは飯島町の歴史や文化を保存し広める活動をされています。

「飯島陣屋」や実際の現地で定期的に講座を開いており、どの回も大変好評です。

令和7年度も講座の予定がありますので、ぜひ足を運んでみてください。

講座の日時や詳細は、飯島町の広報誌をご覧ください。

広報誌「いいじま未来飛行」は、公式HPでご覧いただけます。

広報誌「いいじま未来飛行」はこちらから読めます →



Q.移住を考えている方にメッセージをお願いします。

義幸さん：僕たちは移住してきて本当によかったなと感じています。なので、移住を考えている方に、飯島町に移住してきてよかったと感じている人がいることが伝わると嬉しいです。楽しいことも大変なこともたくさんありますが、それは都会に住んでいても田舎に住んでいても同じこと。自然に囲まれた中で畑や庭作りを楽しむことができるのは、とても良いですよ。

隆子さん：農業に興味がある、いつか就農したいなと考えている方は、ぜひ飯島町で農業をやって欲しいです。農家の方は本当にかっこいいです。農業は素晴らしいですし、子どもたちは自然に触れ合うことで、本当の意味で豊かに成長していけるのではないかと思います。ぜひ一緒に農業をやりましょう！また、騒音問題を気にせず、楽器の演奏をすることもできます。



取材後記

今回、第1回目の取材で大変緊張しながらご自宅に伺ったのですが、お二人が暖かく出迎えてくださいました。丁寧に手入れされたお庭やご自宅でお二人のお話をお伺いしていると、お二人の田舎暮らしへの思いや義幸さんの歴史への深い造詣、隆子さんの飯島の子どもたちへの熱い想いに触れることができました。

矢野義幸さん・隆子さん、素敵なお話をありがとうございました！

